

飯能に生息する

トウキョウサンショウウオ

森のフィールド学舎 三上 晃誌

飯能市にある谷戸や休耕田周辺には両生類の一種のトウキョウサンショウウオが生息しています。

トウキョウサンショウウオの成体は水辺付近の地面に小動物が開けた穴などの陸上でくらししていますが、孵化したばかりの幼生は水の中でくらししています。幼生は孵化した年の夏から秋頃に上陸をした後、3年から5年かけて成熟すると、再び産卵地の水辺に姿を現し繁殖に参加します。飯能市では2～4月に産卵をしているところが観察されています。

このように陸地と水辺を往来する生きものであるトウキョウサンショウウオですが、現在かなり数を減らしていると考えられています。



メス1匹は卵のう1対(2房)を産卵する。卵数は中の黒い粒を計測する(1房平均75個)。

原因はアライグマの捕食や産卵地の減少などがあげられています。アライグマはトウキョウサンショウウオが産卵に来た時に出くわし、成体や例外的に卵のうも食べてしまう場合があります。また、産卵地には幼生がくらせる水辺とその周辺に成体がくらしやすい樹林等が必要となります。昔は田んぼや用水路等に産卵していましたが、現在では人の管理が行き届かず、休耕田となり産卵地が荒れてしまうため、産卵できる水辺がなくなってしまっている状況です。

私たち森のフィールド学舎では飯能市と連帯して、トウキョウサンショウウオの産卵地の地権

者の許可を得て、産卵地の保全活動を行っています。主に水路や池づくりなどを行うことで、水辺環境を安定させ、さらにアライグマの捕食を防ぐために障害物を置く対策もしています。

また、飯能市エコツーリズムのエコツアーとして保全活動を行っている谷戸もあります。そちらは飯能市内では大産卵地であり、2020年から手を付けはじめ、最初の記録では卵のうは36対72房、中の卵は2,455個でしたが、3年たった2023年には、卵のうは82.5対165房、中の卵は4,343個と約2倍近く数が増えています。



アライグマの捕食を防ぐ障害物

産卵できる場所はかなり減少している現在ですが、トウキョウサンショウウオの寿命は10から15年、記録では20年以上生きた個体も発見されているため、比較的長寿な生きものと言えます。このため、卵のうが少ない産卵地でも、トウキョウサンショウウオの成体の生息数は多い場合もあり、産卵できる環境さえ整備すれば、その後多くの卵のうが見つかる可能性があります。このように、長期間の調査と保全活動を継続することが重要です。



トウキョウサンショウウオの成体

産卵地の最終的な形は、トウキョウサンショウ

ウオだけの環境ではなく、産卵地の谷戸に様々な生きものがくらせる場所を作り、環境学習が出来るような場所づくりが必要になるとも森のフィールド学舎では考えています。

これからもトウキョウサンショウウオの保全活動を継続しながら、新たな産卵地の形を模索していきます。

進行するナラ枯れと倒木・落枝

自然観察指導員 大石 章

昨年(令和5年)、天覧山・多峯主山でのカシノガキクイムシ(以下「カシナガ」)によるナラ枯れが顕在化して4年目となり、以下のような変化が出てきました。

○コナラ・クスギ

被害に遭ったコナラ、クスギもある程度生き残っていますが、昨年夏の酷暑で枯れる樹が増加しました。対策として、沿道の枯れ木の伐採が進められていますが、手が回らない状況です。

枯れた樹がすぐに倒れることはまれですが、カシナガの貫入は枝まで及んでいるため、直径10cm前後の枝が頻繁に落下していますので警戒が必要です。



道路脇に散乱する落枝

○カシ類・サクラ

4年目からシラカシ等のカシ類の被害が増加しましたが、抵抗力があるのか枯れる樹は少ない状況です。また、食害しないはずのヤマザクラにまでカシナガ、ヨシブエナガキクイムシが貫入しましたが、樹液を出して虫を殺し、枯れる樹は見られません

○奥武蔵の状況

一昨年からですすでに県民の森でナラ枯れ被害が確認されていましたが、昨年秋に蔵山(1044m)に登ったらかなりのミズナラの被害が確認されました。ミズナラはナラ枯れになり易いとされているので今後が心配です。

○注意喚起

冬期は特に落枝がひどくなると思われるので、ナラ枯れ木の下で休憩、昼食は避けましょう。強風の日には雑木林には入らないでください。



樹液を大量に噴出したヤマザクラ

てんた活動情報

前号で報告した自然共生サイトへの登録の状況ですが、令和5年10月25日(水)、第1回認定122サイトの管理者が集まり、自然共生サイト認定証授与式が行われました。その多くはトヨタなど有名な大企業でした。

埼玉県内では、トトロの森、飯能・西武の森、凸版印刷総合研究所、そして天覧山東谷津・ほとけじょうの里の4箇所が認定されました。今後、隣接の飯能・西武の森とも連携した保全が継続的に図られるよう努めていきます。



環境省自然環境保全局長(左)から認定証を授与された大石副代表理事(右)